

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第1年 第1回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2014(平成26)年4月20日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 26人

張 氷青、葉 元聡、任 家林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、孔
敏淑、崔 想、河 相宇、ヴィラマー ジェリー、タカハシ ライゼール
ラモス、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ フィ、仲田
シリワン、シャルマ ガジエンダー、ヒラチャン アスカ、ケゼングア
エドワード、セヌー ジョアキム、鈴木 イエレナ、バルトコバ オクサナ、
園田 泉 ベアトリス、河本 ファビオ 良則、シフケン ブランドン、
オルソン チャールズ、デイトマー ダニエラ

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、ながさわ 担当課長、おおた 担当課長、八木 担当
課長、笛木 担当係長、北爪 職員、たかはし 専門調査員

4 傍聴者 8人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 委嘱状の交付

(4) 副市長あいさつ

(5) 事務局の紹介

(6) 代表者の自己紹介

(7) 議事

① 正副委員長の選出

② 年間日程・会議の進め方の確認

③ 市内視察について

(8) 事務連絡

(9) 閉会

【開会】

(開会し、事務局から配布資料の説明)

(委嘱状交付)

【砂田副市長のあいさつ】

砂田副市長「川崎市には現在123の国や地域から、約3万人の外国人市民の方が暮らしている。おおよそ50人に1人は外国人市民という状況だ。川崎市は1996年に条例を制定し、この会議を立ち上げた。川崎市は国際都市を目指すことを考えているが、本当の国際都市ということになれば、そこに住んでいる全ての人の人権が守られ、そして暮らしやすい社会をつくる、というのが本当の国際都市だと思う。この18年、外国人市民代表者会議の皆さんがいろいろな提言をしていただいた。全てとはいわないが、いくつかは実現され、一歩ずつ暮らしやすくなっているのではないかなと思う。

4月10日には、第9期の委員長、副委員長、部会長の3名の方が福田市長に会い、3つの提言をいただいた。川崎市としても実現に向けて、一生懸命取り組んでいきたいと思う。今回、皆さんは第10期ということで、任期を終えて提言されるときにはちょうど20年という節目になる。ぜひ2年間、川崎を住みやすいまちにするために、いろいろな立場から議論していただき、ご協力をいただきたい。」

(事務局石川室長から事務局の紹介)

【代表者の自己紹介】

王委員「中国の香港から来た。日本は9年目で、川崎はまだ5年目だ。川崎市についてまだ知らないことがたくさんあるが、これから話し合いを通じて、よりよいまちづくりに貢献できたらと思っている。」

河本委員「ブラジルから来た。日本に来て10年で、川崎には7年ぐらい住んでいる。川崎に住んでいる外国人の生活を改善できるように、みんなで意見を出し合い頑張りたいと思う。」

牟委員「台湾出身で3年前シンガポールから来た。16年間シンガポールに住んでいた。シンガポールは多民族、多文化、多言語の国だ。いろいろな経験を生かし、みなさんと協力して、学校の多文化、多言語について話し合いたい。」

グエン委員「ベトナムから来た。日本に来てちょうど今年で20年目になるが、川崎はまだ6年目だ。再任なので今回で2回目だが、同じく再任の人たちと新任の人たちと、前回残された課題とこれからもみんなで議論していく課題と、みんなで力を合わせてやっていきたい。」

金委員「川崎生まれ、川崎育ちで、ほかの地域に住んだり、外国に住んでいたりと、こともあるが30年以上川崎市にお世話になっている。今、子どもが小学生と、あと認可の保育園にお世話になっている。また、一緒に暮らしている母が介護保険の援助を得て、毎週リハビリに通っていて、そういうところでも日々感じていることを生かしたらいいかなと思っている。」

セヌー委員「15年前にベナンから来た。第9期も代表者だった。外国人のみなさんが感じたことと現場が感じたことを抽出して、みなさんと一緒に川崎市が暮らしやすいまちになるように頑張りたいと思う。」

河委員「国籍は韓国で2007年から川崎市に住んでいる。この代表者会議を通して、自分が住んでいるまちがもっと住みやすく、外国人だけではなくて、日本人の人と一緒に暮らしができるような国際的な都市になるように、貢献できるように頑張りたい。」

仲田委員「タイから来た。よくボランティアの活動などを多摩区役所でやっている。今は外国人子育て広場のスタッフだが、仕事はしていないので、15年間ずっと主婦だ。主婦の人はわかると思うが、一番大変な仕事は主婦だ。そして、外国に住んでいる主婦の場合はさらに大変だ。ボランティアをしていると毎日毎日が新しいお母さんが来て、言葉の問題や子育ての問題、制度の問題などがいっぱいあるので、親子の支援について話したい。」

葉委員「中国出身だ。日本に来たのは10年前の2003年で、埼玉、東京、川崎、大阪、その次は東南アジアのタイに行き、また2年前に川崎に戻ってきた。この10年間いろいろなところで生活してきて感じたことをこの会議を通して生

かし、川崎をよりよいまちにできるように貢献したい。」

鈴木委員「ロシア出身だ。日本で10年暮らしているが、川崎には8年住んでいる。

私は主婦なので、子どもの子育てとか主婦の関係についていろいろと知りたい。あと、外国人がもっと暮らしやすくなるようなことを、みなさんと一緒に調べ、議論したい。」

シャルマ委員「インドから来た。日本に来てから約11年になる。川崎は5年だ。第9期から継続だが、国際交流、子どもの勉強のことがかなり重要だと思っている。10期では、オリンピックもあるので、川崎をどうやってもっと国際的な都市にできるかということを考えている。」

ヘイ委員「マレーシア出身だ。学生なので若い人の目線から、いろいろな意見交換ができたと思っている。」

ヒラチャン委員「ネパール出身だ。私自身は、生まれも育ちも日本だが、川崎に来てからはちょうど3年ぐらいだ。ちょうど子育てする世代ということもあり、外国人の子どもたちの教育、子育てについていろいろと話しができればと思っている。」

張委員「中国の出身だ。第9期からの再任だが、まだ残っている課題やこれから新たな課題も出てくると思うので、これから2年間かけて話し合い、よい提言ができたと思う。」

オルソン委員「アメリカ生まれだが、日本に来て今年でもう40年になる。川崎には娘と孫も一緒に住んでいるので、多分これからもここに住むと思う。我々は割と裕福で、幸せな生活ができていると思うが、そうではない人のことも決して忘れるべきではない。人身取引とか、労働搾取のことについてとくに興味を持っている。」

園田委員「ブラジル出身の日系2世だ。第9期からの継続だが、10期でも残っている課題をできるところから一歩ずつ進めたい。20年前に日本に来た当時と比べれば、外国人にとっても楽になっている部分は多いと思う。ただし、まだまだ課題はあるので、私たちが26人で経験をいかして、できるだけ外国人も日本人も豊かな暮らしができるように頑張りたいと思う。」

ヴィラマー委員「フィリピンから来た。日本に来てからはほぼ7年で、ずっと川崎に住んでいる。市内の外国人社会の問題を把握して、どのように対応、解決できるかということとみなさんと協力して一つのミッションとして取り組んでいき

たい。」

シフケン委員「アメリカから来た。日本に来て21年たつが、川崎で過ごしたのは12年だ。我々外国人が日本では投票できないが、この会議で約3万人の外国人市民の代表として川崎市に声を届けることができるのがうれしい。差別問題、年金問題や子育てについて話し合いたい。子どもの教育などは全部、家からはじまると思う。要するに親がしっかりしていないと、子どもがしっかりすることは難しいと思うので、日本語ができないお母さんたちの力になればよいと思う。」

ドイツマー委員「ドイツから来た。6年ほど前に日本に来て、2年前から川崎に住んでいる。川崎市の国際化やとくに日本人の若い世代の人たちが国際的な視野を広げられるように、何か貢献できたらと思う。」

孔委員「韓国出身だ。約15年前に日本に来て、14年間川崎市に住んでいる。今回話したいテーマは2つある。一つ目は、この代表者会議をもうちょっとPRして、外国人のネットワークだけではなくて、日本人市民たちと交流して、意見を聞きたい。一緒に川崎市を住みやすいまちにしたい。二つ目は、介護分野に関する外国人の就職支援について話したい。」

劉委員「国籍は中国だ。来日して今年で8年目、川崎は3年目になる。昨年子どもが生まれてパパになった。子育て関係の地域活動をしていて気づいたことなどをこの会議を通して、取り組んでいきたい。」

タカハシ委員「フィリピンから来た。日本に来て7年目だ。日本人にも外国人にとっても、よいまちづくりを目指してみんなで話し合い、考えていきたい。」

崔委員「川崎市出身で韓国籍だ。川崎に生まれ育って35年、在日韓国人3世という立場で第9期から参加をしている。第10期では、育児や防災など日本人と外国人が安心、安全で住みやすいまちづくりについて考えていきたい。それと、オリンピックなどもあるので、国際化についても話し合いたい。」

ケゼンダ委員「ケニアから来た。日本に来てから16年になるが、川崎市に引っ越して、まだ3年目だ。川崎市を少しでも生活しやすいまち、外国人のためではなくて、日本人のためにも生活しやすいまちにできるのではないかと思う。主に子育てや、教育関係の課題について協議、議論してよい提言ができればと思う。」

バルトコバ委員「ウクライナから来た。日本に来て9年、川崎に引っ越してから8年

くらいになる。子育てや就職活動について話し合っ、よりよい解決法を考
えたいと思う。」

任委員「出身は中国の東北地方の瀋陽市というところだ。日本に来て11年になる。
川崎市は3年目だ。みなさんのいろいろな意見を聞いて感じたのは、川崎市に
合った具体的な施策とか提案をできれば、我々の成果がしっかり残せるかなと
思った。」

(砂田副市長、加藤局長を囲んで記念撮影の後、休憩をはさんで再開)

【正副委員長の選出】

<仮議長の選出>

石川室長が仮議長を務める (全員挙手) →承認

(事務局北爪職員が資料1、2に基づき正副委員長の選出について説明。)

<候補者の選出方法>

事務局案－立候補者、推薦された人の両方が候補者となる。ただし推薦された人は
辞退できる。(全員挙手) →承認

<候補者の決定方法>

事務局案－①候補者が1人の場合は挙手で承認をする。②候補者が2人以上の場合は
投票で選ぶ。(全員挙手) →承認

<投票の方法>

事務局案－①一番票の多かった人が過半数をとった場合はそのまま決定。②一番票
の多かった人が過半数を超えていない場合は上位2位の候補者で再投票。なお、
i 何も書かれていないもの、ii 候補者ではない人の名前に○がついているもの、
iii 複数の候補者の名前に○がついているもの、iv 書かれた内容が読み取れない
ものは、無効票とする。(全員挙手) →承認

<副委員長の選出>

事務局案-委員長と同じとする。(全員挙手) →承認

[委員長の選出]

石川仮議長「では、委員長に立候補したいという方は手を挙げて。」

立候補－なし。

推薦－セヌー ジョアキム (→承諾)

シャルマ ガジェンダー (→辞退)

園田 泉 ベアトリス (→辞退)

崔 想 (→辞退)

シフケン ブランドン (→辞退)

石川仮議長「それでは、セヌー委員は委員長になった場合の抱負をお願いする。」

セヌー委員「みなさんとともに川崎市の制度に沿うかたちで考えながら、できるだけ意見をうまく集約できるよう務めたい。」

< 挙手による承認 >

全員挙手→承認

[副委員長の選出]

石川仮議長「続いて、副委員長の選出に移る。副委員長に立候補したいという人は手を挙げて。」

立候補—なし。

推薦—シフケン ブランドン (→承諾)

王 夕心 (→辞退)

金 スンオグ (→辞退)

牟 鳳菊 (→辞退)

孔 敏淑 (→辞退)

オルソン チャールズ (→承諾)

劉 健全 (→辞退)

石川仮議長「それでは、シフケン委員とオルソン委員から副委員長になった場合の意気込みをお願いする。」

オルソン委員「私は経験者ではないので彼の方がよいかもしいないが、退職して時間もあるので何か社会貢献をしたいと思っている。2年間の間にいろいろな提案が出ると思うが、効率よく進めていきたい。まずは、川崎市の外国人にどのようなニーズがあるのかということ調べて、そういった情報をもとに問題の重要度を考え、みんなで話し合っていきたい。」

シフケン委員「まずは、会議を円滑に進めることが目標なので、それをきっちりとやるつもりだ。それと、委員長のリードをフォローして、みなさんの意見を上手くまとめて、2年間たったらしっかりと成果が残るようにし、それを川崎市に伝えることを一番の目標にしたい。」

<投票>

[1回目]

オルソン チャールズ (→ 1 2 票)

シフケン ブランドン (→ 1 2 票)

(無効票 2 票)

[2回目]

オルソン チャールズ (→ 1 3 票)

シフケン ブランドン (→ 1 3 票)

もう一度意気込みを聞く (賛成多数)

シフケン委員「今までの2年間、委員長と副委員長を見てきたが、大切なのは会議をまとめることだと思う。2年間を振り返ってみると、自分の中でうまくまとめられなかったという思いがある。委員長と副委員長は、一生懸命まとめようとしたのだが、やはりさまざまな国籍の代表者たちがいるので、それぞれの意見をまとめるのは非常に大変だったと思う。私は難しいとは思いますが、やはりうまくまとめるということを目指にしたいと思っている。副委員長としてのスピーチや委員長のサポート、会議の前の準備についても一生懸命やるつもりなので応援をお願いします。」

オルソン委員「一番大事なことは、結果をスムーズにまとめて意義のある提案をすることだと思う。そのための方法を考えなければいけない。会議の時間は限られているので、会議以外のコミュニケーションも必要だと思う。もう1つ考えていることは、代表者会議のPRをして代表者以外の人たちからも意見を聞けるような方法が考えられるとよいと思っている。全員が合意することは難しいかもしれないが、なるべく100%のことができるようにしたい。悩むこともあると思うが、みんなで一緒に悩みながら協力していきたい。」

[3回目]

オルソン チャールズ (→ 1 8 票)

シフケン ブランドン (→ 8 票)

石川仮議長「それでは、委員長、副委員長が選出されたので、改めてお2人からそれぞれご挨拶をいただきたい。」

セヌー委員長「みなさん、ありがとうございます。みなさんの支援と協力は引き続き必要だ。できるだけ自分たちの意見、何をしたいのか、何を市にやってほ

しいのかというところまで細かく考えて、会議がスムーズに進むように、みんなで頑張りましょう。」

オルソン副委員長「私は、もう既にたくさん話したので、この会議を進めるために、言葉は少ないほうがよいと思う。とにかくよろしくお願いします。」

【年間日程およびその他議事について】

セヌー委員長「ここからまた議事を進める。まずは年間日程について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料3に基づき、年間日程について説明。)

セヌー委員長「事務局案について、賛成するかしないか決めたい。賛成の人は挙手を。(全員挙手)次に、会議の進め方について事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料4に基づき、会議の進め方について説明。)

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。」

劉委員「第9期を数回傍聴したが、A部会とB部会というふうに分けるのが適切なのか疑問がある。2つの部会を同時に進めると、片方のテーマしか傍聴することができない。2つの部会を同時にやるのではなく、時間をよく組んで、傍聴者の立場に立って両方の話が聞けるような仕組みにしたい。」

セヌー委員長「今は部会についてはないので、次回、部会についての議事の際にこの意見を。ほかに意見はないか。(なし)では、次に市内視察について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料5に基づき、市内視察について説明。)

セヌー委員長「市内視察について、まずは実施するかしないか意見や質問はあるか。」

(なし)では、実施するか実施しないかについて決めたい。賛成する人は挙手を。(全員挙手)視察の内容については次回の会議で決める。それでは、事務局から。」

(事務局北爪職員が追加審議(インターナショナル・フェスティバルinカワサキ)について説明。)

セヌー委員長「質問がある方は挙手を。」

仲田委員「質問ではなく意見だが、去年参加してみて、日本人も外国人もたくさんのお客さんが来ていたので、この会議をPRするのによい機会だと思う。」

セヌー委員長「ほかに意見はあるか。(なし)では、参加するかしないかについて決めたい。参加に賛成の人は挙手を。(挙手多数)参加ということで決定的だ。議事については終わったので、事務局から。」

(事務局から事務連絡)

セヌー委員長「それでは、これで2014年度第1回第1日、川崎市外国人市民代表者会議を閉会とする。」